

2024年度

＜文学部＞  
小論文問題

## 注意事項

- 1 問題冊子は、監督者が「解答始め」の指示をするまで開かないこと。
- 2 問題冊子は全部で8ページ、解答用紙は全部で3枚、下書き用紙は2枚である。脱落のあった場合には申し出ること。
- 3 解答用紙の各ページ所定欄に、それぞれ受験番号（最後のページは、左右2箇所）、氏名を必ず記入すること。なお、解答用紙は上部で接着してあるので、はがさず解答すること。
- 4 解答は、すべて解答用紙の所定欄に記入すること。
- 5 解答は、「横書き」にすること。
- 6 解答の字数制限は、句読点や記号を含めて数えること。
- 7 解答以外のことを書いたときは、該当箇所の解答を無効とすることがある。
- 8 問題冊子の余白は下書きに使用してもよい。
- 9 問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。

※著作権の都合により公開していない部分は、来学して閲覧が可能です。



(余 白)

問題

著作権の都合により、公開しません。

著作権の都合により、公開しません。

著作権の都合により、公開しません。

著作権の都合により、公開しません。

著作権の都合により、公開しません。



著作権の都合により、公開しません。

【出典：平野千果子『人種主義の歴史』（岩波書店、2022年）。ただし、作問に際し、論旨を変えない範囲で部分的に改変した。】

- (注1) レオポルド二世：19世紀中葉に即位した第二代ベルギー国王。コンゴの植民地化を推進した。
- (注2) ニグロ：ニグロイドの略語であり、アフリカに祖先をもつ黒人（とされる人々）への蔑称。
- (注3) マーカス・ガーヴィ：20世紀前半にパン・アフリカニズム（アフリカ大陸と北アメリカ・カリブ海地域にわたる黒人解放運動の思想）を広く大衆にうったえ、アメリカ黒人のアフリカ性を強調し、そのアフリカ帰還を推進した。
- (注4) ドレフュス事件：フランスで、ユダヤ系の陸軍大尉ドレフュスがドイツに軍事機密を漏らしたとして投獄された冤罪事件。
- (注5) 裁判の原告：前述のパリの郊外電車の駅で起きた小競り合いで、「汚い白人、汚いフランス人」と罵られたほうの若者のこと。
- (注6) マルティニック：カリブ海に位置する小アンティル諸島の島。17世紀にフランス人が入植し、第二次世界大戦後、フランスの海外県となっている。
- (注7) ポストコロニアリズム：西洋を中心とするかつての植民地主義や帝国主義の文化的、政治的、経済的な遺産や影響を批判的に研究する学問の立場。

(注8) ゴビノー：アルテュール・ド・ゴビノー。19世紀フランスの外交官で、白人至上主義を唱えた。

(注9) 酒井直樹：日本出身の日本思想史、比較文学、翻訳論を専門とする研究者。米国コーネル大学教授。

**第1問** 下線部①新人種主義はそれを逆手にとったものであるについて、「それ」が指すのは「文化相対主義」である。その点を踏まえた上で、ヨーロッパにおいて「新人種主義が文化相対主義を逆手にとる」とは、具体的にはどのようなことを指しているのか。「新人種主義」と「文化相対主義」がそれぞれどのような考えであるかが明確になるように、本文の内容に即して300字以内で説明せよ。(120点)

**第2問** 下線部②自分ではどうしようもないアイデンティティを与えられてしまうことがなぜ人種主義の対象となるといえるのか。本文の内容に即して200字以内で説明せよ。(80点)

**第3問** この著者は、「人種」という考え方がどのようにして生まれてきたと捉えているのかを説明せよ。そして、その捉え方を踏まえて、下線部③のいまの日本に必ずしも払拭されずに残っている状況とはどういう状況なのかを自分なりに考え、それにどう取り組んでいくべきかについて論じよ。なお、これらを合計500字以内で述べること。(200点)